

国際文化学部 国際文化学科(※2026年度より適用)

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー(編成方針)
共通科目(全学統一)	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力等を獲得し、幅広い領域に活用することができる。
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。
専攻科目	A-2	多様な文化に関する基礎知識、およびその歴史的・思想的背景に関する幅広い教養を修得している。
	A-3	文化事象について学術的に考察するための専門知識と方法論、および文献読解に必要な語学力を修得している。
	B-2	多様な媒体から信頼しうる情報を取捨選択して適切に活用できるメディア・リテラシー、および異文化理解のために必要な読解力を身につけている。
	B-3	読書と議論を通じて自己の意見を柔軟に練り上げるための思考力と対話力、およびそれを明確かつ論理的に表現するための文章力と発言力を身につけている。
	C-2	歴史と文化についての知識と思索を踏まえて研究課題を自ら設定し、主体的に考察することができる。
	C-3	現代社会における文化の役割を理解した上で、異文化間の相互交流と新たな文化の創造に寄与することができる。
	D-2	自己の価値観について客観的に反省できる批判精神、および他者の文化の多様性を理解し尊重できる寛容さを身につけている。
	D-3	学術を単なる手段とみなすことなく、文化を学ぶこと自体に喜びを見出し、その愉悦を他の人々と共有することができる。
		主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。
		リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
		実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。
		ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
		大学での学修の前提となる基礎知識と教養を身につけるための文化論部門科目、学部での学修に共通する諸分野について理解を深めるための学部共通部門科目、および資格取得等のための自由選択部門科目を1年次より配置する。
		系やコースでの学修に必要な専門知識と方法論を修得するために、情報処理に関する科目を1年次より、系・コース専攻部門科目を2年次より、そして高度な語学力を涵養するための専門外国語部門科目を3年次より、それぞれ配置する。
		大学での学修の前提となる基本的なリテラシーと正確な読解力を修得するための演習・卒業論文部門科目(基礎演習)を1年次に設置する。
		専門的研究に必要な思索と解釈の力を養い、その表現と発信の方法を実践的に学ぶための演習・卒業論文部門科目(導入演習)を2年次に配置する。
		自己の問題意識に基づき研究を立案・遂行するプロセスを学ぶための演習・卒業論文部門科目(専門演習)を3年次に、現地での学修や調査を通じて異文化を体得するための自由研究科目を1年次以降に、それぞれ配置する。
		学修と異文化体験の成果を学術論文へと創造的に昇華し、その今日的意義を探るための演習・卒業論文部門(卒論演習および卒業論文)を4年次に配置する。
		多様な文化を学ぶことを通じて自身のアイデンティティを常に問い直し、柔軟な世界観を養うための専攻科目(全部門)を1年次より設置する。
		教員による研究成果を教育現場へとフィードバックし、学生の知的好奇心と探究心を刺激し鼓舞するための専攻科目(全部門)を1年次より設置する。

【ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの各カテゴリー】

A:知識・技能

B:思考力・判断力・表現力等

C:総合的な学修経験・創造性

D:態度・志向性

カリキュラム・ポリシー(実施方針)

①国際文化に関する分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。

②少人数制で運用される演習科目においては、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高めるため、プレゼンテーションやディスカッション等の教授方法を用いる。

1. 求める学生像

国際文化学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

- ① 高等学校卒業に相当する幅広い教養と基礎的な語学力を身につけている者
- ② 本学科における専門的かつ学際的な学びを実現するために必要な、歴史、文化、社会等についての基礎知識を持つ者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

- ① 世界のさまざまな文化事象に関心を持ち、問題を発見し、解決するための思考力と判断力を持つ者
- ② 自らの考えを他者へ発信するために必要な表現力を持つ者

〔目的意識・意欲〕

文化の多様性を理解しつつ、異文化間の交流と新たな文化の創造に積極的に関与する意思をもち、他者と協働する意欲を持つ者

2. 選抜方法

国際文化学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試(前期・後期)、一般・共通テスト併用型入試)
高等学校での教科・科目における学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な「知識・技能」「目的意識・意欲」「思考力・判断力・表現力等の能力」を有しているかを評価して判定する。
- (2) 総合型選抜(総合型入試)
総合型入試では「学びと探究型」と「多言語能力重視型」に分けて入学者を選抜する。
「学びと探究型」では、調査書および出願者作成の書類(志望理由書、学修計画書、独自研究レポート)により書類選考をおこなったうえで、研究レポート内容についてのプレゼンテーションと面接をおこない、基礎知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性、および本学科への適合性を総合的に評価して判定する。
「多言語能力重視型」では、調査書、志望理由書、学修計画書のほか、英語以外の得意な外国語について検定試験の成績を確認したうえで、小論文試験と面接をおこない、本学科での学修に有益な外国語の能力、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性を総合的に評価して判定する。
- (3) 学校推薦型選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試)
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。指定校推薦入試では、国語の学習成績の状況を出願資格に加えることにより、国際文化学科において専門知識を修得するための国語力を有する者を評価する。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「目的意識・意欲」を総合的に評価して判定する。
- (4) その他の選抜(外国人入試、国際入試(帰国生・IB生))
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「目的意識・意欲」を総合的に評価して判定する。